

第3回航空保税・貨物WG 議事要旨

1. 日時：令和元年10月10日（木） 10:00～12:00

2. 場所：ソリッドスクエア 会議室2（ソリッドスクエア1階）

3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事の概要

（1）議題

① 第2回合同WG提案内容についての結果報告

○ 事務局から、資料1に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

② システム対象業務の見直し

○ 事務局から、資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。

（プログラム変更要望 1. 航空会社 項番2 IMF11業務について）

▶過去、IAW業務で積荷目録事前報告情報が確認出来ていた。当時の仕様に戻すことは出来ないか（委員）

⇒ 次回の単年度プログラム変更要望でご提案頂き、現行で対応が難しいという場合には第7次NACCSでの検討とさせて頂きたい。（事務局）

⇒ 航空貨物に係る事前報告制度の施行に伴い、積荷目録事前報告情報のための新規照会業務（IAA業務）を設けたため、ADMO1業務で登録された情報をIAW業務の照会対象から外した経緯がある。積荷目録事前報告情報の照会については、IAA業務をご利用いただきたい。（事務局）※WG後追記

▶AWB番号によるソーティングはどのような方法を想定しているのか。到着した貨物の書類は順番が整理されていない状態なので、ソーティング出来ればIMF11上のAWB情報と対差確認の際に、該当のAWBを見つけやすくなる。（委員）

⇒ 現時点では、AWB番号のどの数字を検索キーとするかなど詳細まで検討は行っていない。具体的な内容については詳細仕様検討の場にて検討させていただく。（事務局）

▶現行仕様はどうなっているのか。（委員）

⇒ 現行仕様については、仕様を確認する必要があり、回答出来かねるが、データベースに登録された順番となっている。当該案件を実現するにあたり、現時点での想

定としては検索する度に並べ替えを行う場合、システムへの影響が懸念される。
(事務局)

▶システム処理に関して負荷が懸念されるとのことだが、パッケージソフト側（クライアント側）でソーティング処理を行えば、NACCSサーバ側の負荷は抑えられるのではないか。処理方法にはサーバ側、クライアント側の2つの考え方があると思う。

(委員)

⇒ ご意見として承った。(事務局)

(プログラム変更要望 1. 航空会社 項番3 CFS01 について)

▶「Y」入力の有無に関係なく自動出力される仕様について、不一致に関係なく一律で自動出力するのか、若しくは不一致となった場合にのみ自動出力するのかといった出力条件については、パラメータ化してU業務で選択出来る仕組みが良いのではないか。(委員)

⇒ ご意見として承った。(事務局)

(プログラム変更要望 1. 航空会社 項番4 CLE業務について)

▶本件のニーズはある。CLE業務を複数回行う場合には、アラートが出力される挙動が望ましい。(委員)

⇒ ご意見として承った。具体的な仕様については詳細で検討させて頂きたい。ニーズはあると理解した。(事務局)

▶現行仕様は、スプリットのケースの場合、2回目以降のCLE業務は出来ない仕様となっているのか。1回目に成田空港で出発登録を行い、2回目以降の貨物を羽田空港から日を跨いで複数回実施しようと試みた際に、処理が行えなかった事例がある。(委員)

⇒ 現行仕様でもスプリットの場合には対応出来ている認識である。質問頂いた事例については別途個別に確認させて頂きたい。(事務局)

(プログラム変更要望 2. 機用品業 項番2 SHS業務について)

▶海上の蔵置場にてISされた貨物の一部を機用品として再ISし、CIA業務による在庫管理フローにて後続処理を行う想定である。機用品のフローを改めて確認し、それに沿った形の要望にすべきだと考えているが、本件に関して成田のケータリング分科会では検討は行われているのか。(委員)

▶弊社が取り扱いをしている航空会社の内、資料に記載されているフローに該当する会社は1社のみ。他社にも確認が必要である。(委員)

▶弊社系列のケータリング会社においても同事象によりCIB業務にて搬入しているケースがあり、改善に向けた相談を受けたことがある。成田のケータリング分科会と連携して意見の取り纏めさせていただきたい。（委員）

⇒ 承知した。引き続きご協力をお願いしたい。（事務局）

○ 事務局より追加補足

システム対象業務の見直しは、基本的にはプログラム変更要望となると思うが、第7次NACCSの更改に当たっては、出来る限りの電子化・ペーパーレス化を実現していきたいと考えている。現場の運用の中で例えば、海上では許可書等が出力されているにも関わらず紙を持ち込むケースが存在する。航空ではRSV業務などもあるが、基本的に電子化をして紙をなくしていきたいと考えている。今後もシステム対象業務の見直しの中で、新規業務或いは現行業務の見直しなどが出てくると思うが、紙による運用が残っていれば、皆様からの意見を頂きながら電子化、ペーパーレス化を進めていきたい。（事務局）

③ 次期システムへの移行方針

○ 事務局から、資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶第6次NACCS移行時に5時間45分間停止した。成田から羽田はトラックで輸送しているが、深夜から早朝まで保税転送を行えなかったため、後追いでデータ処理を行わざるを得なかった。2020年以降羽田空港の国際化がさらに進むので、せめて3～4時間程度までに短縮出来ないか。（委員）

⇒ 現場として移行時間を短縮してほしいという要望があることは承知している。ただ、貿易サブシステムも取り込んだ上での移行となるので、まずは中年度更改でいかに短縮できるかを参考にしつつ、可能な限り短縮できるように検討していきたい。（事務局）

▶停止の時間帯に関しても考慮してほしい。NACCSが（深夜から早朝まで5時間以上も）停止すると夜の到着便貨物について翌朝処理ができない状態になってしまう。これまで更改日は三連休の中日にて設定されてきたと思うが、アンケート等で利用者の意見を把握した上で曜日や時間帯を検討してほしい。（委員）

⇒ 第7次NACCS更改については、曜日や時間帯、作業時間の短縮に関する検討を行いつつ、一括移行を目指す。（事務局）

④ 定期保守の見直し

○ 事務局から、資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶保守を行う曜日について、現状の土曜日深夜～日曜日早朝は運航時間帯なので、日曜

日深夜～月曜日早朝に変更してほしい。また、変更にあたっては、作業開始時間を早め、トラブル発生時のリトライ時間を確保してはどうか。（委員）

⇒ 保守時間については、現行の2.5時間を短縮することは困難であると考えている。実作業1.5時間では、通常作業に加え、必要に応じたプログラム変更作業も行っている。時間帯や曜日を見直すことについては今後も検討をさせていただく。（事務局）

▶現状、SP業者では夜間帯のトラフィックが増えてきている。保守作業を実施する曜日や時間帯の検討にあたっては、NACCSセンター側でトラフィック状況を調査の上、検討してほしい。（委員）

⇒ ご意見として承った。今後トラフィック状況も配慮し検討させていただく。（事務局）

▶無停止での保守を希望する。サーバは冗長構成をとっていると思うが、レスポンスが多少遅くても良いので無停止にできないか。システムの完全停止は業務上、影響がある。24時間365日無停止の仕組みを考えてほしい。（委員）

⇒ 無停止についてはコスト的な側面もあるほか、安定的な運用の観点からも保守時間が必要と考えている。無停止を目指す場合には、プログラム変更も制限する必要があるかもしれない。ただし、頂いたご意見を参考にシステム構成については検討させていただく。（事務局）

▶リリースやプログラム変更などを減らさなくても、無停止のメンテナンスは実現できると思うので、前向きに検討してほしい。（委員）

⇒ 第6次NACCSでは、一部オンライン中のリリースを行えるようにしている。第7次NACCSのシステム構成検討の中では、停止の伴わない仕組みの検討に努めた。（事務局）

⑤ システムの信頼性について

○ 事務局から、資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶最近netNACCSでは使用不可等の障害がよく発生し業務が混乱した。その際にはSMTPやインタラクティブでなんとか代替し対応してきた。netNACCSで使っているデジタル証明書が障害の一因とも聞いているので、NACCSシステム自体以外にも、デジタル証明書といったシステム利用に関わる部分についても「システムの信頼性」という範囲に含めて考えた方が良いのではないか。（委員）

⇒ デジタル証明書の見直しについては、第2回WGにて提案させて頂いた通り別議題にて検討させていただく。（事務局）

▶業務トランザクションの処理時間は平均1秒以内とのことだが、時間帯によっては処理時間を長く費やしているケースもある。おそらくハードウェアを拡充するだけでは限界があるのではないかと思う。eコマース普及により、例えば短時間に数千件など大量な情報を処理しなければならないようなケースもある。ハードウェア以外にも申告方法など、法改正を含めて抜本的な対策が必要ではないだろうか。（委員）

⇒ 業務量増加等も踏まえてシステム構成をしっかりと検討していきたい。また、法改正については関税局等との連携を前提として検討していきたいと考えている。

（事務局）

⑥ EDI仕様（電文形式）について

○ 事務局から、資料6に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

⑦ EDIFACT のバージョンアップ対応

○ 事務局から、資料7に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

(2) 事務局からの連絡

次回の合同WGの日程等について事務局から説明を行った。

(3) 全体を通じた意見

▶第7次NACCSでは、NACCSセンターとしてもペーパーレス化を更に推進したいとのことなので、是非それを進めてほしい。官民業務部分でのペーパーレス化は進んでいると感じているが、民業務部分では進んでおらず、マニュアルによる作業がまだまだ残っているのが現状である。企業間や業界団体間で議論をしても並行線に終わるケースも多いので、NACCSセンターが主導的に動いて進めてほしい。（委員）

⇒ ペーパーレス化については積極的に取り組んでいきたいと考えているが、皆様の協力無くしては実現できない。皆様の協力をお願いしたい。（事務局）

⇒ 特に海上では未だに紙中心の文化が根強く残っている。税関としてもペーパーレス化の必要性については十分に理解しており、税関・NACCSも皆様と一緒に同じ（ペーパーレス推進という）方向を向いて進んでいきたいと考えているので、是非ともご協力願いたい。（WG長）

以上